

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

91

福岡県立鞍手高等学校長 印

(全日制課程)

No.

学校運営計画(4月)		評価(3月)	
学校運営方針	<p>校訓「質実剛健 自学自習」、校是「たくましき前進者たれ」のもと、社会の変化に主体的に対応し、心身ともに健康で、五常の徳目を自己の生活規範となし、自らの可能性に積極的に挑戦する気概と叡智に富み、地域はもとより国際社会に貢献する人間を育成する。その実現のため、次の3つの教育目標を掲げる。</p> <p>○学問を愛し、意欲的に学ぶ。 ○身体を鍛えて、強い実践力を身につける。 ○力をあわせて、美しい学校をつくる。</p>		
昨年度の成果と課題	29年度重点目標	具体的目標	
<p>分団制や教育相談機能の充実で、生徒会活動を中心とした活発な学校づくりができています。さらに百周年に関わる行事を通して、鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす取組とする。</p> <p>また文科省にSSHの新規申請を行い、本年度より2期目に指定された。SSHと3年目に入ったSGHの事業を融合させることで、学習活動のレベルアップを目指すとともに、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善を図り、生徒の進路実現へ向けた取組を強化する。</p>	<p>授業改善を図ることで学習指導をより一層充実させ、確かな学力の育成を図る。また、進路指導の充実により、高い志を持ち意欲的に学ぶ生徒を育てる。</p>	<p>生徒の学力向上に向け、研究授業・授業公開等を積極的に実施する。主体的・対話的で深い学びを充実させ、学ぶ意欲やチャレンジ精神等の向上を図る。総合的な学習の時間の内容の充実や高大連携の活性化を図るキャリア教育の推進により生徒に高い志を持たせ、第一進路希望の実現を図る。国公立大学100名以上、九州大学等10名以上の合格を目指す。</p>	
	<p>生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いの中で、豊かな人間性を育み、自律心と思いやりの心を持つたくましい生徒を育てる。</p>	<p>創立百周年の年を迎え、各行事等の教育的意義や期待される成果等を全ての生徒・教職員で共有する。それにより、生徒の主体的で積極的な態度を育成し、教職員・生徒が一体となって一つひとつの行事を充実させる。分団制を推進することで、上級生がリーダーシップを発揮し、自主性や集団への帰属意識を高めて生徒の生きる力を育む。また、鞍高宣言の主旨を浸透させることでいじめの撲滅を推進するとともに、元気な挨拶が飛び交う学校を目指す。</p>	A
	<p>SSH及びSGH事業を学校全体で推進するとともに、大学や外部機関との連携を深め、課題研究等を通じた教育活動の更なる充実・深化を図る。</p>	<p>高大連携、研究機関・企業・地域との連携を積極的に行うことで、SSH及びSGHの取組を充実・深化させ、生徒の主体的・自主的学習態度の涵養に資する。ICTを使った国際会議への取り組みも推進し、グローバルシティズンシップを備えた人材育成を図る。教科科目の学力向上のみならず課題研究においては、解決困難な課題にグループで挑ませることで「鍛ほめ福岡メソッド」を実践し、自尊感情やコミュニケーション能力、課題解決能力等の育成を目指す。</p>	

(全日制課程)

No.

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度への主な課題
教務領域	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。	育成したい力を明確にし、その力を育成するための具体的な手立てを明らかにした研究授業の実施。及び授業改善アンケートの実施	B	B	○授業アンケートの目的が授業開発であったため、授業改善するという視点が不十分であった。授業改善という視点も取り入れたアンケートにする。育成したい力の部分がわかりにくかったようである。アンケートの目的・意義・活用法を再度整理し直す。○進路指導領域と協力し、学習時間調査の目的・方法・活用方法を見直す。正確な家庭学習状況の把握が必要。減っているのか、どうなのか。減っているならばどうすべきか。○自学自習教室の設置というハード面の方策だけではなく、生徒が主体的に家庭学習に取り組むようになるソフト面の方策を考える。 ○欠課時数報告書を形骸化させないよう、考査ごとに注意喚起を行う。 ○効果的な広報活動は何か。鞍手高校を志願した理由は何か。ホームページに載せてほしい情報は何か。以上のことを把握するために新入生に対してアンケート調査を行う。○中学校・塾訪問の際に、中学生や保護者が高校選択において何を重視しているか、生の声をもっと聞き取り、今後の学校の在り方に反映させる。 ○「ICTの効果的・効率的な活用方法」を主題とした研究授業を教科の枠を越えて実施する。 ○生徒の個人情報の保護を徹底するとともに、情報を効果的に活用するための情報処理システムの構築を行う。
	自学自習時間の増加	放課後や休日における自学自習教室の開設	A		
	能力評価指標の作成	育成したい力を明確にした評価規準の作成(全教科)	B		
	欠席や欠課の多い生徒の早期把握と組織的な対応	欠課時数報告書を活用し、教科担当⇒クラス担任⇒学年主任⇒教育相談委員会という流れで、気になる生徒の情報を迅速に把握する。	A	A	
	広報活動の充実と改善	魅力的な中学生体験入学や中学生保護者対象の学校説明会、公開授業週間を実施する。ホームページの定期的な更新をする。	A	A	
	情報機器を活用した授業の推進	ICT（電子黒板やタブレット、プロジェクターなど）の効果的・効率的な活用法を教科の枠を超えて共有する。	B	A	
	個人情報の厳密な管理	成績をはじめとする生徒情報の保存場所・管理方法の再点検を行う。	A		
◎上記の改善策以外に、教務領域として改善すべき課題とその改善策	課題1 授業カットや行事のためにクラス間での授業時数に差がある。 課題2 課題考査の目的・効果があいまいである。課題考査に対して真剣に取り組んでいない生徒もいる。	考査から考査にかけての授業時間数が曜日・時限によって差が出ないようにこまめに調整する。これをできる限り年度当初に行っておく。それでも差が生じる場合は年度途中の変更も行う。 課題考査の目的や内容について検討する。			

(全日制課程)

No.

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度への主な課題
生徒指導領域	教師のカウンセリングマインドに基づいて、生徒の元気で意欲的な学校生活を保障する。	教師が生徒一人一人に目を向け、生徒に自己肯定感を持たせ、自主・自律の心を高めることができる生徒指導を推進する。	A	A	本年度HRを精選し、学年・学級に使用してもらった時間としたが、その使い方について進路指導部・教務部・各学年と綿密に話をしておく必要があった。生徒指導の様々な基準について、あいまいな部分も見受けられるので、きちんと整理していきたい。生徒会や各委員会をより能動的に活動できる組織へと育てていく必要がある。この1年間は、創立百周年の記念行事にかなり時間がかかり、一つずつの行事を完遂することに全力を注いできたが、次年度以降はもっと先を見通した生徒指導体制をつくっていく必要がある。行事についても、必要に応じて精選すべきところは精選するなどの話し合いの時間も確保していかなければならない。
		学校満足度調査において、学校満足度90%以上を継続する。	B		
	基本的生活習慣の確立を図る。(時間厳守、挨拶、整理整頓)	生徒会や分団リーダーによるマナーアップ運動を展開する。(挨拶の励行)	A	A	
		全職員による生活指導、マナー指導を行う。(定期的に登下校指導等を行う。)	B		
	上級生のリーダーシップを生かし、生きる力を育む生徒指導を展開する。	75%以上の部活動加入率を継続する。	A	A	
		生徒主体の分団制による生徒会行事・創立百周年記念行事を通して共感的人間関係を育成する。	A		
	心身の健康を自己管理できる生徒を育成する。	教育相談委員会や学校医と連携して教育相談体制の充実を図る。	A	A	
		保健講話等による健康教育の充実やインフルエンザ等感染症の予防の徹底と迅速な対応を行う。	A		
	委員会活動を活性化し、美しい学校をつくる。	生徒への健康管理啓発活動を行いながら高等学校保健会での活動を積極的に行う。	A	A	
		全生徒・全職員による毎日の清掃活動による環境美化の充実を図る。	B		
学校の教育活動全体を通して、様々な人権問題について理解を深め、実生活に活かせるように指導の充実を図る。	人権教育授業を充実させ、生徒に人権感覚を身につけることができるよう、指導の充実を図る。	A	A		
	生徒間の交流や学級活動を通して、より良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養成する。	A			
生徒の実態を知り、素早い対応が取れるよう、アンケートや職員研修を充実させる。	毎月いじめアンケートを実施し、問題に迅速に対応できるよう努める。	A	A		
	校内職員研修会を実施し、職員間で情報を共有する場を設け、指導の充実を図る。	A			
進路指導領域	難関校10名を含む国公立大学100名以上の合格と生徒全員の進路実現を目標とする。	「上皆」を活用して、基本的生活習慣を確立させる。	B	A	進路実現に向けた取り組みが各クラス、学年において、当初の予定通り実施できた。特に、卒業生を招いてのシンポジウム、職業人講演会、SGH、SSH事業との連携でのフィールドワークデイ、また2年全員で参加した「夢ナビライブ」等は、進路意識を高める有効な動機づけとなった。課題は、学校を取り巻く時代の変容にどう対応するかである。来年度に関しては、まず、次の3点を提案したい。 (1)平成33年度実施の新入試制度に伴う調査書推等の改定に備えて「上皆」を「学修記録手帳」に改定する。(2)卒業生の合否結果(成績開示データ)に関して追跡調査を行いデータベース化する。(3)新1年生から導入予定の「共通テスト」に備え、英語外部試験を受験するための時間を確保する。 高大接続の流れの中で、推薦A0入試枠の拡大や探究型・教科横断型への問題形式の変容等、入試制度が変わろうとしている時期に当たり、さらに検討を加え、生徒たちが進路選択を適切に行えるよう、進路指導体制を整えたい。
		個人面談を頻繁に行い、学習面、学校生活面を両立できるよう促す。	A		
	生徒の実態を把握し生徒一人一人への指導を充実させる。	FineシステムやK-netを利用し、学習面の弱点等を認識させ、その克服へ向かうアドバイス等を行う。	A	A	
		日々変化する情報をキャッチしながら、大学等の入試内容を研究し、生徒の進路指導にあたる。	A		
	SSHやSGHでの取り組みと「総合的な学習の時間」を融合することによってキャリア教育を充実させ、早期に将来の目標設定を目指す。	SSHやSGHと連携しつつ、招聘授業やシンポジウム、大学訪問を通して、大学へ進学する意義や意欲を高揚させる。	A	A	
		冊子、インターネット等を使って、学部学科研究を深めさせる。	B		
	効果的な課外授業や土曜セミナー、模擬試験を実施し、さらなる学力向上を図る。	インターンシップを多く取り入れるよう努めたり、社会人シンポジウムを開くことで、職業観を育成する。	A	A	
		課外授業や土曜セミナーを有効的に実施し、授業の補充を充実させる。	A		
		模擬試験の結果を分析し、生徒の進路志望や学習への取り組みを強化させる。	A		
		各学年とも1年間で国数英の3教科の学力到達度をB1(国公立大学合格レベル)以上になるよう、模試の結果を分析し、課外授業等を充実させる。	A		

(全日制課程)

No.

庶務課	諸行事の円滑化・効率化を図るための事務的処理を行う。	学期ごとに庶務課会議を持ち、各学期に行う作業の分担・手順の確認を行うことで、無駄のない事務処理を行う。	B	B	A	各学期ごとの会議をさらに効果的に行えるように学期ごとの計画ではなく、年間計画にして会議を実施したい。PTA総会は土曜日から平日開催になった影響で若干の参加人数の減少がみられた。しかし、職員が全員で取り組むことができたのはよかった。来年度以降職員のPTA総会参加を促す工夫をしていきたい。環境整備や福利厚生に関しては一定の成果を上げている。今後も継続していきたいと考える。
	PTAとの連携を密にし、各種委員会活動の充実を図る。	PTA役員会、理事会を通して、適宜情報を提供することで、学校の現状を理解していただき、よりよりPTA活動を行えるようにする。	A	A		
	文書・情報の整理、保管並びにその改善を図る。	常に閲覧・利用が可能な職員会議議事録、運営委員会議事録を作成し、前年度と比較、参照できるようにする。	A	A		
	職員室の整備等、職場環境の充実をはかり、職員の福利・厚生に努める。	職員室・更衣室・下足ロッカー等の整備を行い、整った状態を保つことで、気持ちよく仕事ができるようにする。	B	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度への主な課題
理数科	理数科の独自性の確立及び学年・教科・各分掌との連携の強化を図る。	理数科委員会を活性化する。特にSSH課との連絡を密にし、理数科独自の行事の充実を図る。	B	A	理数科独自の行事である、サイエンスリサーチは1年生福岡研修、2年生東京つくば研修は生徒たちの知的好奇心や進路意識の向上に一定の成果は収められたと考える。次年度以降も反省点を活かし改善継続していきたい。課題研究に関しては県代表として中国・四国・九州大会に参加し発表できたことは、進路実現の一助となったことは間違いない。今後も引き続いて課題研究のレベルアップを目指したい。近隣中学への広報活動は、教務領域との連携により秋の夜長の説明会などを有効には活用できた。パンフレット等については早急に検討したい。3年生の推薦入試、AO入試では理数科行事、課題研究の取り組みを活かして合格した生徒もおり、今後にどう生かしていくかを理数科で協議することが大切であると考えている。
		SSH事業や、課題研究を十分に活用して、将来の研究者や技術者としてのキャリア教育を行う。	A		
		2年生東京・つくば研修、1年生福岡研修の充実をはかる。	A		
	中学校や地域に対する広報活動を充実する。	SSH課と連携し、理数科独自の行事や活動内容、および実績を中学校訪問を通して伝える。	B	B	
		理数科研修や課題研究の内容、成果を理数科通信やパンフレット等を利用して広報する。	B		
進学実績の向上を目指す。	SSH課と連携し、SS総合コミュニケーションで行う課題研究の質を高め、生徒の進路意識を高める。	A	A		
	難関理系大学・医科系学部を含む、難関大5名、国公立大学理系への進学30名以上を目指すために、1, 2, 3年の理数科で情報交換や連携を図る。また、AO入試や大学の独自入試にもチャレンジできる生徒の育成に努める。	B			
人間文科コース	人間文科コース生徒の基礎学力の定着と応用力の向上を図り、コースの特性を活かしながら進路の実現をめざす。	各教科で習熟度別授業・少人数授業を展開し、基礎学力の向上を図る。またコース独自の授業を活用して文系科目の強化徹底に努める。	B	A	3年:SGH事業成果発表会において、準備段階から代表発表者をはじめクラス全員での活動によく取り組むことができた。また、京都大学での発表、SGH全国大会での発表等SGH事業の中心として活かしていただき、本人だけでなく、クラス全体にこれまで3年間通して活動してきた意義や充実感を感じることができた。 2年:シガポール・マレーシア課題研究も3年めに入り、課題自体の難しさもありながら、積極的に取り組んでいる。また、英語に対する積極性もみられる。 1年:鞍高生として自覚を深め行事に積極的に取り組んでいる。来年度以降、より学年間の交流をはかり、情報を共有するとともにSGH事業をさらに積極的に活かし進路実現を広めること、またSGH事業終了後にも現在の活動が継続できるよう検討する。
		課題研究でのグループ討議・論文への取り組みや海外研修での経験を活かし、推薦・AO入試に積極的チャレンジし、国公立大学10名以上の合格をめざす。	A		
	全学年ともにSGH事業との連携をよりすすめ、各セミナー・海外研修・課題研究等内容の充実を努める。	グループによる課題研究を通して、個々の興味・関心を深めるのみならず、生徒間で、お互いに自己の意見をはっきりと述べ討議できるコミュニケーション能力を育成し、SGH事業の核となる取り組みを行う。	A	A	
		海外での企業研修やホームステイなど体験活動を通して学び考え、課題研究の内容をより深められるよう工夫する。	A		
	大学との連携や中学校・校外へのPR活動を活発に行い、コースのレベルアップを図る。	各セミナー・課題研究を通して、大学との連携を図り、生徒自らが考え、行動できる力を育成する。	A	A	
人間文科コースの活動内容をまとめ、行事等を通じて校内においてもコースに対する理解を深める。		B			
SSH課	全教科・科目における授業改善の実施	年間1回以上必ず授業改善を実施できるような実施方法を開発する。	A	C	校内で授業改善の成果を共有することができ、本校SSHの目的である「たくましく7つの能力」を全教科・科目で育成していく枠組みこそできたが、授業改善の実施状況と成果の共有に関してはまだまだ改善していく必要がある。課題研究の実施に関してはTV会議システムを導入でき、今まで以上につながりやすくなったことは成果といえる。改善すべき点としては、研究テーマが教科別に分かれているが、進路別なテーマ(工学部系、看護系など)も導入しながら実施方法を検討したい。評価法の開発については、課題研究の発表における評価についてはコメント分析法を用いて分析を行えたことや、生徒の評価観も取り入れたルーブリックを作成できたことが一つの成果といえる。
		授業改善の成果を全教員で共有できるような、職員研修会を年に1回以上実施する。	C		
	課題研究推進体制の構築	理数科での課題研究では、体験型プログラムと深く関わり合い、大学や企業と連携した課題研究を実施する。	B	B	
		SGH課と協力して文系生徒・理系生徒双方に通じる課題研究プログラムを作る。	B		
	たくましく7つの能力に対する評価法の作成	福岡教育大学と連携し生徒データ間の相関性を見出すことで、教員の経験に基づいた評価法を開発する。	B	B	
実験や研究等の考察記述を分析し、評価するコメント分析法を年1回実施する。		B			
SGH課	課題研究推進体制の構築	学年と連携して現代社会探究及び課題研究I・IIの推進体制を構築する。	A	A	1年生の現代社会探究については、学年のチーフを中心に、各研究班の取組を計画的に実施することができた。2年生の課題研究Iについては、DP班では九州大学との連携やFP班ではフットパス全国大会に出場するなど、新たな連携や取組を実施することができた。京都大学での英語発表や第1回全国SGHフォーラムでのポスター発表など、研究の成果を発表する場も増えており、次年度についてはSGH事業の成果の発信・普及にも力を入れていきたい。また、アンケート等を再考し、取組とその効果について、SSHの知見も活用しながら、科学的な分析を試みていくことが次年度の課題である。
		SSH課と協力して文系生徒・理系生徒双方に通じる課題研究プログラムを作る。	B		
	高大連携・地域連携ネットワーク作り	大学および教科との連携を深め、課題研究の内容をより一層充実させる。	A	A	
		外部との連携をより密にし、地域を巻き込んだ活動を展開する。	A		
	能力評価指標の作成	北九州市立大学地域創生学群と連携し、評価指標の検証を行う。	B	B	
生徒の活動の観察及び生徒成果物の分析を通して、ルーブリックを作成する。		B			

(全日制課程)

No.

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度への主な課題
1学年	本校のルールを早期に身につけ、自覚ある行動がとれるようにする	挨拶を励行し、身だしなみを整え、校外内外のマナーを遵守させる	B	A	大学入試改革にともない、浪人した時のデメリットなどをしっかり指導し、同時に基礎学力定着の重要性を指導していくことが大切である。そのためにも早期に目標を定め、その実現のために動き始めなければいけないという意識を育てていく。 上しを活用し、家庭学習時間や日々の生活に気を配り、きめ細やかに指導していく必要がある。また、次年度以降は、最上位層の学力アップの方策を考え、最難関校合格に向けた対策を始動しなければならないと考える。 また、英語検定試験2級合格30名、準2級合格100名を目標にした英単コンクールの実施など、学年を一つに取り組んでいきたいと考える。 部活動加入率90%、出席皆勤者130名を目標に、学校を中心に据えた生活態度の育成に努め
		分団制を理解させ、学校行事への積極的参加を促し、学校行事は生徒中心で作るという精神を育成する	A		
		100周年行事に積極的に関わらせ、本校の文化と伝統を学ばせ、鞍手愛を育む	A		
	自ら学ぶ態度を育成し、継続的に学習する習慣をつける	家庭学習時間の確保に努めさせる	B	B	
		校外模試での数値目標を明確に掲げ、早期分析、活用に努めさせる	B		
		進路意識を向上させ、基礎力、実践力の育成に努めさせる	A		
思いやりの心をもち、礼節をわかまえる	部活動に積極的に参加させ、コミュニケーション能力や思いやりの心を育成する	A	A		
	出席皆勤を意識させ、学校生活を中心に据えた生活態度を身につけさせる	A			
2学年	活気に満ちた規則正しい生活	欠席・遅刻の撲滅。年間出席皆勤130人以上	B	B	概ね良好な学校生活を送れているが、まだまだ甘さは否めない。3学期を3年生0学期と位置付けて、上級生としての自覚を一層促していきたい。
		元気な挨拶と時間の厳守	A		
		100年の伝統を引き継ぎながら、新たな世紀を創る次期リーダーの発掘・育成	A		
	自律から自立へ～自ら学ぶ態度の育成～	朝の10分間の効果的な活用	A	B	教室内で静かに自学をする生徒が増えてきた。「時間をつくるもの」という意識づけを行い、本物の自学自習の習慣を身につけさせたい。 将来像が曖昧なまま勉強をしている生徒も多く、本当の学びに繋がっていない。在り方・生き方指導を充実させたい。 上位層の育成、底上げもうまくいかなかった。
		デジタルサービスの積極的な活用	B		
		課題研究や修学旅行、海外研修等を通して社会を知り、学問を深め、進路意識を高揚させる。	A		
		上位層の育成と全体的な底上げ。	B		
	SSH&SGHを積極的に活用し、具体的進路目標の早期設定	校外研修の積極的な参加を促す。	A	A	ハチドリ隊、知の創造塾、島サミットなど校外研修に参加し、自分の可能性を伸ばそうとする生徒が数名出てきた。SSH・SGH採択校らしい進路実現に繋げたい。
AO・推薦向きの生徒の発掘・育成		A			
3学年	自律から自立へ～自ら学ぶ態度の育成～	自ら学ぶ姿勢を高めさせる。夜間・休日自学室利用延べ1万人以上。	A	A	生徒たちはよく頑張っている。しかし、定期考査での欠点者の数や、課題の提出状況など、基本的な学びの姿勢においていい加減な者も多々見受けられる。3年間の学力形成における定期考査等の価値について、もっと徹底して理解させる必要があった。 生徒たちは進路実現を果たすべく、努力を続けている。いくつかの取組は奏効したと言ってよい。しかし、成績上位層の形成のために習熟度別クラス編成を行うなどしたが、これについては反省点が多い。最後まで諦めず、一人でも多くの生徒を合格させられるよう、取り組んでいく。 多くの行事を、鞍高百年の名に恥じぬ形で成功に導くことができた。生徒たちの人間的な成長を大いに感じる。評価Aとさせていただいたが、生徒たちのこれからは、本当の意味での評価を決める。彼らが鞍高の卒業生としての誇りを胸に、大いに社会で活躍してくれることを確信する。
		高い目標設定と確実な学力向上の取組を妥協せず行う。センター試験の各科目学年平均点を全国平均プラス5点(満点100点あたり)。	A		
		小論文などの取組を通じた表現力の向上(早期対策の実施)。将来につながる内外言の涵養を図る。	A		
	主体的に将来を展望し、志とともに進路実現をさせる	種々の学校行事を通じて常に人間力の向上にチャレンジさせ、自分の真の適性を考えた進路選択を行わせる。	A	A	
		諦めず、継続的かつ着実な歩みを進める生徒の育成。できない自分を否定するのではなく、できるようになる自分をイメージする生徒の育成。	A		
		国公立大学合格者100名、旧帝大を中心とした難関大合格者10名以上。	A		
	鞍高百年の名に恥じぬ学校行事を築き上げさせる	すべての学校行事・記念行事を、学校を牽引する最上級生としての誇りと責任のもとに、70期生全員で取り組ませる。	A	A	
		自己満足で終わらず、常に後輩たちのことを考え利他的に行動することで学校行事等を活性化させる。	A		
鞍高生であることへの誇りを持ち続ける生徒、将来にわたって鞍高を愛し続ける生徒の育成。		A			